

群 教 セ	G06 - 01
	平18.236集

マルチメディア教材 「西牧安全探検隊」の作成と活用 — 身のまわりの危険を認識し、安全に行動するために —

特別研修員 竹田 鎮則 (下仁田町立西牧小学校)

《研究の概要》

本研究では、小学校第5学年及び第6学年体育科保健領域「けがの防止」において、児童が身のまわりの危険を認識し、安全に行動するための手助けとなるマルチメディア教材「西牧安全探検隊」を作成した。学校や地域の様子を撮影した動画や静止画を教材化することで、身のまわりの危険を自分の生活と重ね合わせて認識することができ、安全に行動することへの意識を高めることができた。

I はじめに

学校や地域にひそむ危険を認識し、安全に行動することは、小学校第5学年及び第6学年の体育科保健領域「けがの防止」で学習する。教科書では、文章のほか、写真や図などを掲載して、学校や地域における危険を児童に分かりやすく説明している。しかし、本校のように、学校が山間部に立地しているような場合、教科書にある写真や図だけでは、児童が学校や地域などの身のまわりにひそむ危険を認識するためには、必ずしも十分とは言えない。

本校は、斜面に校舎が建っているため校庭が狭く、上級生も下級生も一緒になって狭い校庭で、様々な遊びをしている。お互いに気付かないまま行動し、ぶつかることで、大けがにつながる恐れさえもある。また、本校が立地する地域は、山間に道路や集落があり、日常の交通量は少ないが、狭い道路をスピードを上げて車が通ることが多い。児童の通学路には、すぐ脇が川であったり、急坂の路地から車道に出たりする場所もある。

このような現状の中で、児童が「けがの防止」の学習をするに当たり、学校や地域にひそむ危険について、自分の生活と重ねて考えるには、教科書にある写真や図を補うための学校や地域独自の資料が必要である。本来であれば実際に危険な場所を自分の目で確認することが重要であり効果的であるが、地域の危険な場所を調べることは時間や距離の関係、安全性の問題から難しい。

そこで、けがのもととなる行動や危険な場所な

ど、身のまわりにひそむ危険を動画や静止画で撮影したマルチメディア教材「西牧安全探検隊」を、Web形式で作成することにした。Web形式を用いることにより、見たい動画や静止画を簡単な操作で表示することができる。児童にとっては、学校や地域を撮影した動画や静止画を用いることで、視覚的に分かりやすくなり、その場にいるような感覚で危険を認識しやすくなると考える。本教材によって、児童が身のまわりの危険を効果的に認識し、「けがの防止」の学習の理解を助けることになり、安全に行動するという意識を高めることができると考えた。

II 研究の内容

1 「西牧安全探検隊」の概要

(1) 基本的な考え方

小学校第5学年及び第6学年体育科保健領域「けがの防止」においては、児童が危険を認識し、安全に行動して、けがを防ごうとする態度を育てる必要がある。

本教材は、「けがの防止」の授業で、身のまわりにひそむ危険、けがのもととなる行動や危険な場所を児童に認識させるために、教科書にある写真や図を補う提示教材として活用する。また、児童が休み時間や放課後に、多目的室のコンピュータを使って、簡単な操作で繰り返し利用できるように、Web形式で作成する。さらに学校や地域の動画や静止画を用いることで、児童が身のまわりの危険を認識し、安全に行動することへの意識

を高めることができるようにする。

本教材は、次の二つの視点で作成する。

ア 学校にひそむ危険

児童にとって、学校は生活の場であり、注意する場所もある程度認識している。しかし、休み時間に、夢中になって遊んでいたりと、調子によってふざけたりしている時には予測していない出来事が起こり、けがへとつながることがある。そこで、休み時間の様子などを児童の目線で動画や静止画を撮影する。日常の行動を確認することで、意識していない危険のもとを認識させることができる。そして、客観的に自分の行動を見直し、すぐに学校生活へ生かすことができると考える。

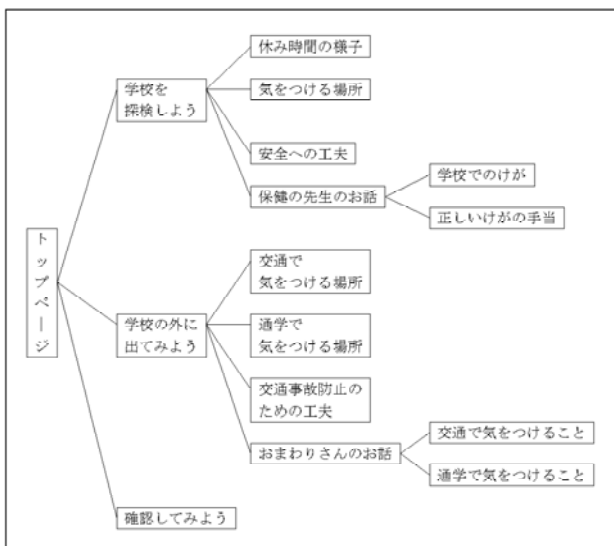
また、けがをした時の手当ができない児童も見られる。そこで、本教材では、けがの処置に必要な薬品や正しいけがの処置の仕方を動画で提示する。

イ 地域にひそむ危険

教科書に載っている写真や図などの事例を補い、児童に地域にひそむ危険を認識させるために、地域の様子を撮影した動画や静止画を用いる。児童にとって馴染みのある場所ではあるが、時間や距離の関係、安全性の問題で実地見学できない危険な場所を提示することで、地域にひそむ危険についてより認識しやすくする。

(2) 教材の構成

図1 教材の構成図



2 教材の内容

(1) 「トップページ」

起動するとトップページが表示される(図2)。トップページには、「学校を探検しよう」(校内のけがの防止)、「学校の外に出てみよう」(学

校外のけがの防止)、「確認してみよう」(自己診断チェック)へのリンクを設定した。

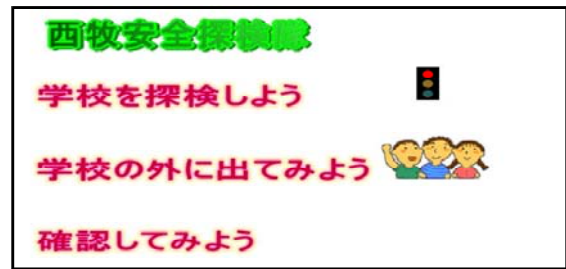


図2 トップページ

(2) 「学校を探検しよう」のページ

「学校を探検しよう」(図3)の「休み時間の様子」「気をつける場所」「安全への工夫」「保健の先生のお話」の項目をクリックすると、それぞれのページが表示される。「学校で起こるけが」の原因を考える場面やそれを防ぐためにはどうしたらよいかを考えさせる場面での活用ができる。

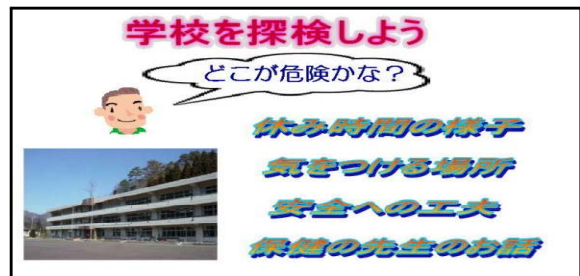


図3 学校を探検しよう

ア 「休み時間の様子」

児童が自分たちの行動を客観的に認識することができるように、休み時間の行動の様子を動画や静止画でまとめてある(図4)。けがの原因の人的要因に気付かせ、どのようにすればけがを防げるかについて考えさせることができる。



図4 休み時間の様子

イ 「気をつける場所」

「階段」や「曲がり角」、「流しのまわり」など、学校内でけがの原因の環境的要因になりそうな場所が表示される(図5)。注意して行動する

場所が分かる。



図5 気をつける場所の例(階段)

ウ 「安全への工夫」

学校内での安全確保のための、手すりや注意書きなどが静止画で見られる(図6)。安全確保のための設備を見せることで、環境整備をしっかりとすれば、けがを防ぐことにつながる事が理解できる。



図6 立ち入り禁止箇所の注意書き

エ 「保健の先生のお話」

本ページでは、「学校でのけが」と「正しいけがの手当」についての養護教諭による説明を聞くことができる。

「学校でのけが」では、危険な行動や場所を認識しやすくするように、学校で起こるけがやその原因が説明される。

「正しいけがの手当」のページでは、手当の仕方のポイントが、文字や音声で挿入されている動画が提示される(図7)。また、手当に使う薬品は静止画で撮影したものを取り入れ、一目で分かるようにした。



図7 正しいけがの手当

- (3) 「学校の外へ出てみよう」のページ
「学校の外へ出てみよう」のメニュー(図8)

の中から「交通で気をつける場所」「通学で気をつける場所」「交通事故防止のための工夫」「おまわりさんのお話」をクリックすると、それぞれのページが表示される。「地域で起こるけが」や「交通事故」の原因やそれらを防ぐにはどうしたらよいかを考える場面で活用できるようにした。

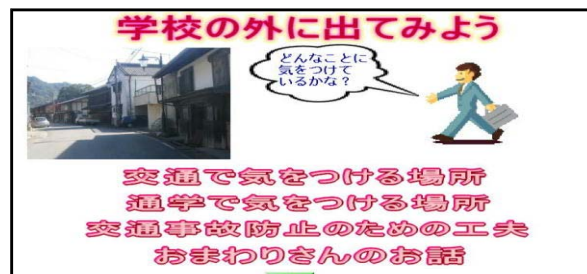


図8 学校の外へ出てみよう

ア 「交通で気をつける場所」

身近な道路の様子から危険を認識しやすいように、通学路や校区内を走る国道などの様子が表示される(図9)。動画で見ることによって、その場所の具体的な様子が分かる。



図9 交通で気をつける場所

イ 「通学で気をつける場所」

「道路下が崖になっている場所」や「歩道の無いところ」など、交通事故以外で通学時に気を付ける場所が静止画で表示される(図10)。地域の中にある危険な場所を確認することができる。



図10 通学で気をつける場所の例
(道路下が崖になっている)

- ウ 「交通事故防止のための工夫」
交通事故を防ぐための標識や設備が静止画で表

示される（図11）。地域に実際にある標識や設備を提示することで、自分の生活に重ね合わせ、確認できるようにした。地域における事故を防ぐための工夫を知るとともに、標識や設備の意味を知り、気を付けることができるようにした。



図11 交通事故防止のための工夫

エ 「おまわりさんのお話」

地域の様子を知り、危険の認識に結びつけることは大切なことである。そこで、学区の警察駐在官に「交通で気をつけること」と「通学で気をつけること」についてインタビューをし、その様子を撮影した動画を取り入れた（図12）。警察官という専門的な立場からの話を聞くことで、児童が興味をもって学習に取り組み、安全への意識を高めるとともに、学習内容を理解しやすくなった。



図12 おまわりさんのお話

Ⅲ 本教材の授業における活用

1 活用計画

(1) 単元名 「けがの防止」(小学校第5学年 体育科保健領域)

(2) ねらい

- 身のまわりで起こる事故の現状を知り、その原因について行動の仕方とまわりの環境の面から考え、理解する。
- 学校で起こるけがの原因を考え、防止の仕方について理解するとともに、安全に行動しようとする意識を高める。
- 地域で起こるけがや交通事故を防止するためには、周囲の危険に気付いて、的確な判断のもとに、安全に行動することが大切であることを理解する。
- 実際にけがをしてしまった時、どのように対処したらよいか理解する。

(3) 授業計画(全4時間)

	時数	ねらい	学習内容(☆は、本教材を活用する場面)	評価項目
事故の発生	1	○身のまわりで起こる事故の現状を知り、その原因について、行動の仕方とまわりの環境の面から考え理解する。	○学校で起こるけがの発生状況・発生項目について知る。 ○交通事故で起こるけがの発生原因について知る。 ○教科書の図を見て、危険探しをする。 ○事故の原因には、行動の仕方とまわりの環境の二つが関わっていることを理解する。	○危険な行動や場所を見付けようとしている。(関心・意欲・態度) ○事故の原因には、行動の仕方とまわりの環境の二つが関わっていることが分かる。(知識・理解)
学校で起こるけが実践①	1	○学校で起こるけがの原因を考え、防止の仕方について理解するとともに、安全に行動しようとする意識を高める。	○自分が学校でけがをした時の状況について振り返る。 ☆Web形式の教材で学校での行動の様子や学校で気を付ける場所を見て、けがを引き起こす危険因子について考える。 ☆けがの防止対策を考え、Web形式の教材を見て、学校にあるけがの防止の工夫について知る。	○学校で起こるけがを防止するための行動や環境整備について考え、けがの防止に役立てることができる。(思考・判断)

地域で起こるけが 実践②	1	○地域で起こるけがや交通事故を防止するためには、周囲の危険に気付いて、的確な判断のもとに、安全に行動することが大切であることを理解する。	○自分が事故に遭いそうになった時の状況について振り返る。 ☆Web形式の教材で学校外の動画や静止画を見ながら、事故を引き起こす危険因子について考える。 ☆Web形式の教材で、学校周辺にある道路標識などを見て、交通事故を防ぐための工夫について知る。 ○事故防止のために、自分たちにできることを考える。	○安全施設・設備や、道路標識・道路標示の役割を理解し、交通事故の防止に役立てることができる。 (思考・判断)
けがの手当 実践③	1	○実際にけがをした時、どのように対処したらよいか理解する。	○自分がけがをした時の手当について振り返る。 ☆Web形式の教材を使ってけがの手当について学習し、ワークシートにまとめる。	○けがをした時の手当の仕方が分かる。(知識・理解)

2 結果と考察

(1) 自分の生活を振り返り、身のまわりの危険を認識できたか

授業計画の実践①(第2次)、実践②(第3次)、実践③(第4次)で本教材を使用した後、児童が身のまわりで注意しなければならない危険な場所を認識できたかどうかを確認するアンケート調査を行った。そして、本教材を使用する授業前と授業後の比較をした(図13)。

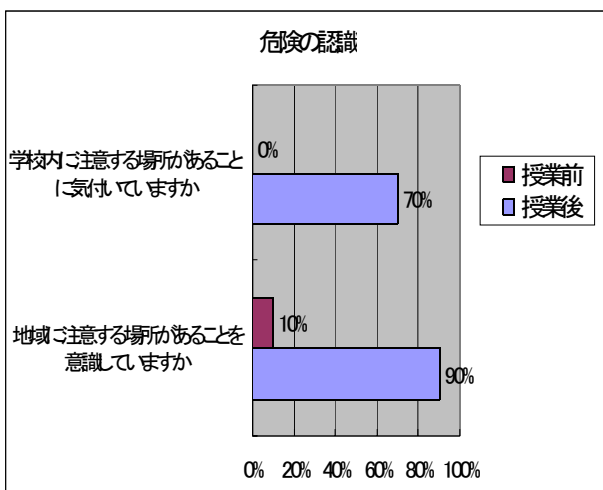


図13 危険の認識についての児童の意識

アンケート結果から、本教材を使用した授業後に、学校や地域の注意しなければならない危険な場所について、気付いたり、意識したりする児童が増えたことが分かる。

実践①「学校で起こるけが」の授業後の児童のワークシートには、図14のような記述があった。

・注意をよくしてみると危ない場所がたくさんあった。
・いつも普通にやっていることでも、考えてみるととっても危ないということがよく分かった。

図14 実践①後の児童のワークシートから

このことから、児童の休み時間の様子などを、児童の目線で撮影した動画や静止画を見ることで、自分たちの行動を客観的にとらえることができ、意識していない危険のもとを認識することができたと考える。

実践②「地域で起こるけが」の授業後のワークシートには、図15のような記述があった。

・道が狭く危険なところが意外に多い。
・自分がルールを守っていれば、事故にあり可能性が低くなると思う。
・身のまわりには、自分の気が付かない結構危険なところがあると思った。

図15 実践②後の児童のワークシートから

また、「ここにはなかったけど、私の通学路も同じように危ないと思う」といった児童の発言もあった。このことから、地域の実際の様子を撮影した動画や静止画を資料とすることで、日常の自分の生活を思い起こしやすくなった。自分の生活と重ね合わせ、今まで意識していなかった危険を認識できるようになったと考える。

実践③「けがの手当」の授業後のワークシート

には、図16のような記述があった。

- ・血が出ている時、血を止めるためにばんそうこうを貼っていたけど、血を止めてから貼った方がいいことが分かった。
- ・今までは何もしなかったけど、これからは勉強したことを生かして、できる手当はしたい。

図16 実践③後の児童のワークシートから

このことから、今まではけがをしても何もしなかった児童が、正しいけがの手当の仕方を覚えたことで、やってみようとする意欲が感じられるようになった。

(2)安全に行動する意識が高まったか

事後アンケート「授業後、自分の行動で意識するようになったことがありますか」の項目に対する児童の記述を以下に示す（図17）。

- ・階段ですれ違う時に、はじによけるようになった。
- ・曲がり角で、スピードを落としている。
- ・横断歩道では、絶対に左右を確認するようになった。
- ・一人で帰らないようになった。
- ・標識やミラーを見るようになった。

図17 授業後の行動への意識の変化

この記述から、児童の意識が変化してきたことが分かる。また、児童の行動を見ていると、階段や廊下の曲がり角で、下級生のそばを通る時にゆっくりと歩くなど、気を付けている上級生の姿が見て取れた。授業後に安全に気を付けて行動している児童が増えてきたと考えられる。

以上の結果から、本教材を活用することで、児童が身のまわりの危険を自分の生活と重ねて考えながら認識し、安全に行動しようとする意識が高まったと考える。

IV 研究のまとめと今後の課題

本研究では、小学校第5学年及び第6学年体育科保健領域「けがの防止」において、児童が自分の生活と重ねて考えながら学校や地域にひそんでいる危険を認識し、安全に行動するための手助けとなるマルチメディア教材を作成し、授業で活用したところ次のような効果が見られた。

○児童の休み時間の様子や校内の危険な場所を動画や静止画で見ること、今まで意識していな

かった危険な行動や、注意すべき場所に気付くことができた。

○地域の危険な場所を動画や静止画で見ること、今までは気が付かなかった危険な場所や注意すべき場所に気付いたり、見付けたりすることができた。

○身近に存在する危険を認識することで、自分の行動を改め、安全に行動しようとする意識や態度が見られるようになった。

○Web形式で教材を作成し、多目的室に置いたコンピュータで学習内容の振り返りができるようにしておいたところ、休み時間など自主的に教材を使用して、学習している姿が見られた(図18)。



図18 教材を使う児童の様子

今後の課題としては、夏の川の増水や冬の路面の凍結など、季節に応じた危険などを取り入れることで内容を充実させたり、気を付ける場所を動画で分かりやすく撮影するなど工夫を加えたりしていく必要がある。また、安全への意識を高めるためには、低学年においても教材を活用し、安全に行動しようとする意識を芽生えさせることが必要であると考えられる。

授業でのより効果的な活用方法・活用場面についても検討し、教員や児童にとって、さらに使いやすい教材になるようにしていきたい。

(担当指導主事 小林 努)

Web検索キーワード

【体育 小学校 けがの防止 交通安全 安全教育】

<参考文献>

- ・『研究報告書第216集』 群馬県総合教育センター(平成15年度)

